

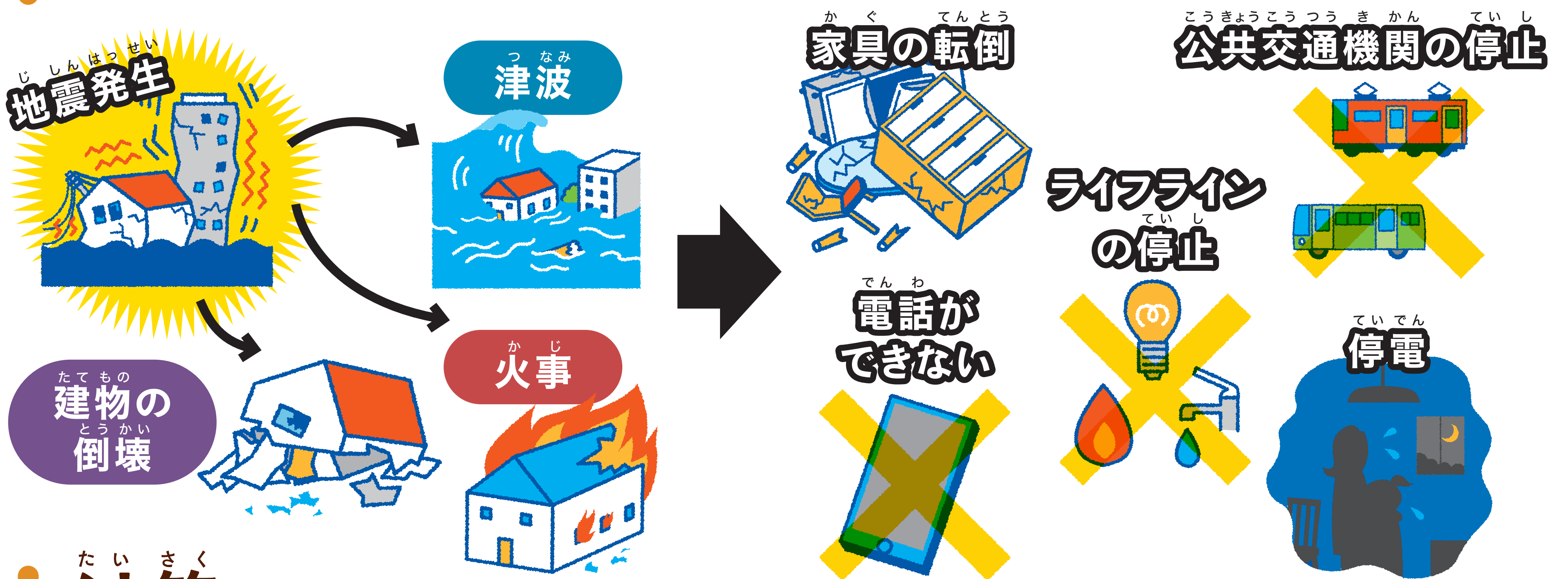
地震

03

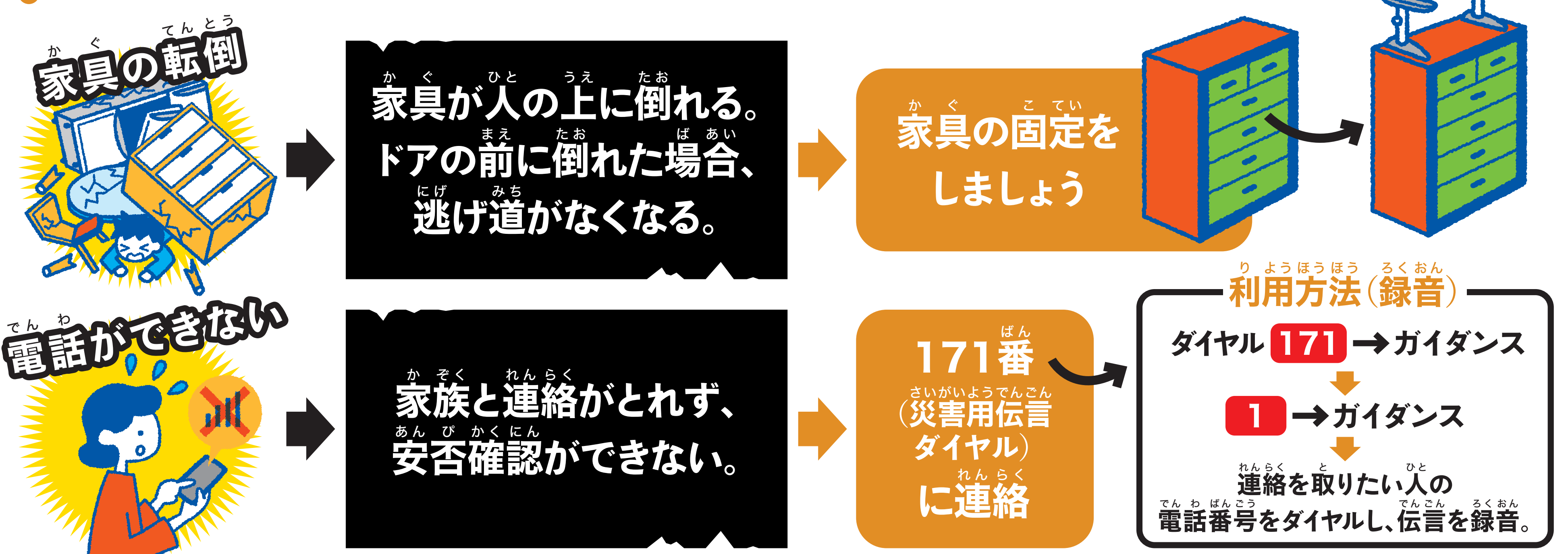
震度の違い



地震が起きたら



対策



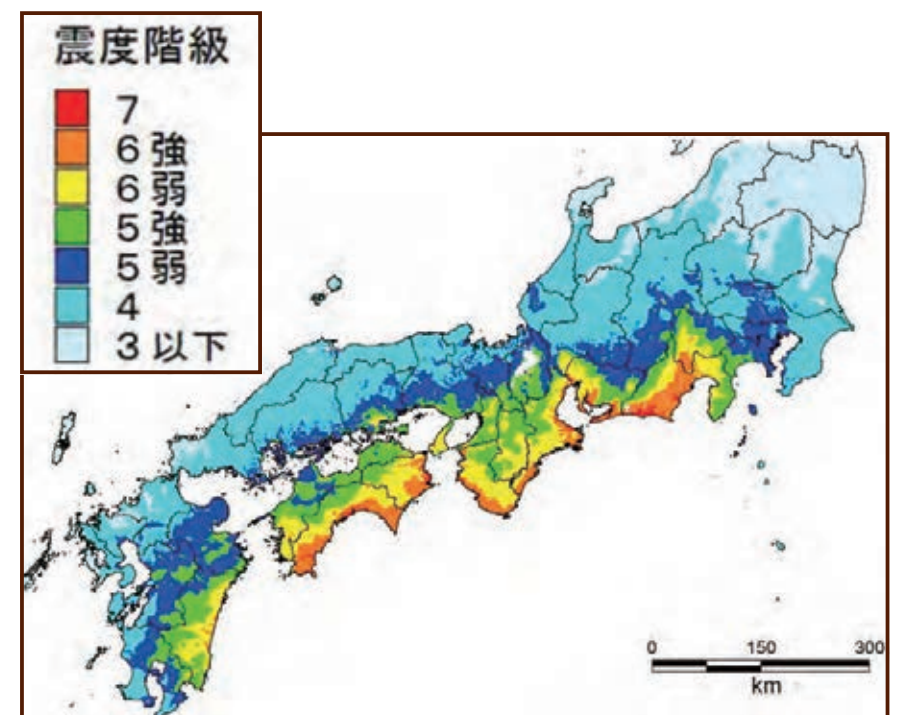
身近な地震

04

南海トラフ地震

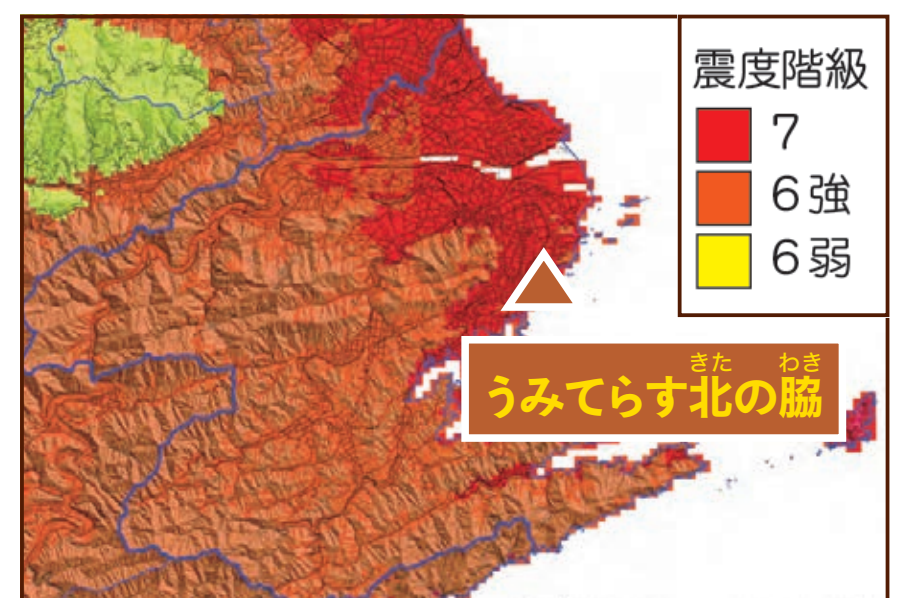
東海地方から九州の間に伸びる南海トラフ沿いの地域ではこれまで100～150年の間隔でマグニチュード8クラスの大きな巨大地震が何度も発生しています。

南海トラフの地震は今後、30年以内に70%～80%の確率で発生するとされています。(※2018年2月時点)



阿南市では…

阿南市では、南海トラフ地震で震度7または6強の非常に強い揺れが長ければ約5分間も続く可能性があります。震度6強では固定していない家具がすべて倒れてしまうため、きちんと家具を固定しておきましょう。

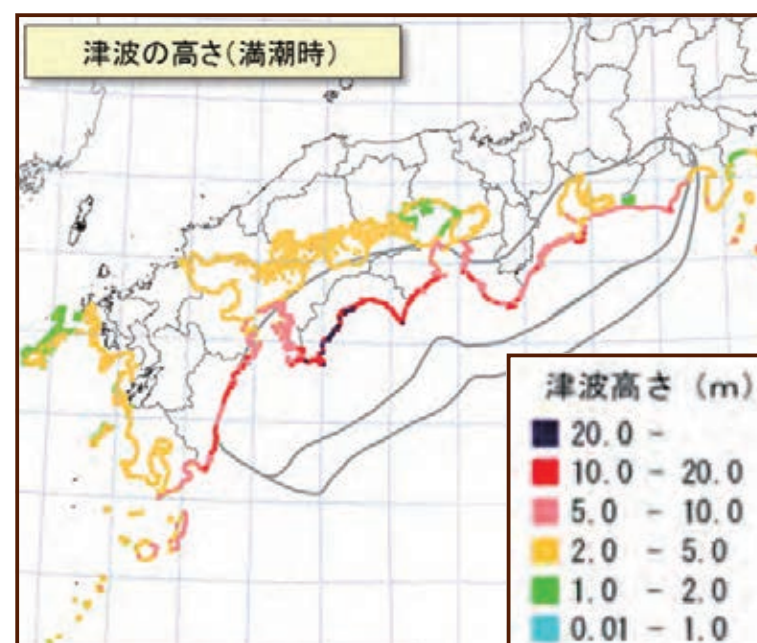
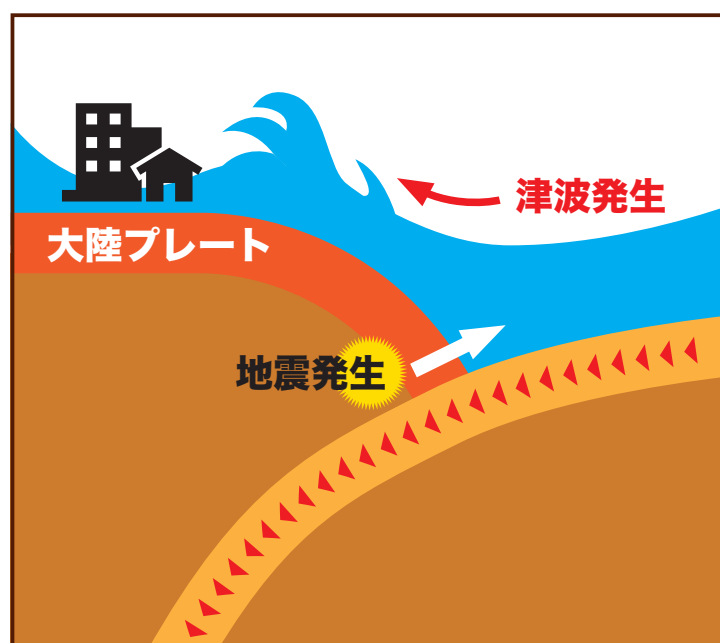


津波

05

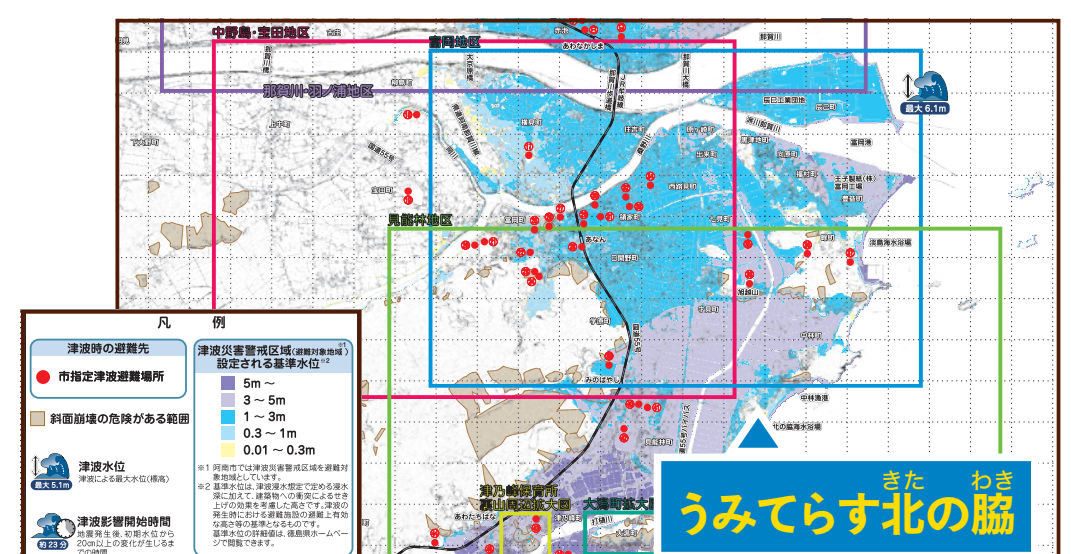
南海トラフ地震の原因でもある「海溝型地震(陸のプレートが海のプレートに引き込まれ続けて一度に元の場所に戻るときに起きる地震)」の際には巨大津波が発生しやすいとされています。(左下図)

南海トラフ地震でも20m以上の巨大な津波が起きるとされていますので、日頃からどこに避難すれば良いのか確認しておきましょう。(右下図)



阿南市では…

南海トラフ地震の際の阿南市への津波の想定は福井川河口に最大8.2m(地震発生から約19分後)が一番大きな予測になっていますが、北の脇海水浴場でも5m以上の津波が来ると予想されています。



南海トラフ地震

06

被害想定

1995年1月に発生した「阪神淡路大震災」の死者の8割は木造住宅などの倒壊による圧死や窒息死であり、地震発生が早朝であったため人的被害が大きくなり、これを機に耐震基準が見直されました。

2011年3月11日に発生した「東日本大震災」は10m～15mもの超巨大津波が発生し、大きな被害をもたらしました。この地震により日本中が「津波」に対して大きな恐怖を感じました。

2016年7月に発生した「熊本地震」では震度7の地震が同地域で二回起き、震度5以上の余震が複数回起きました。南海トラフ地震は近年で最大規模の東日本大震災を超える被害想定が出ており、これまで以上の備えが必要になります。

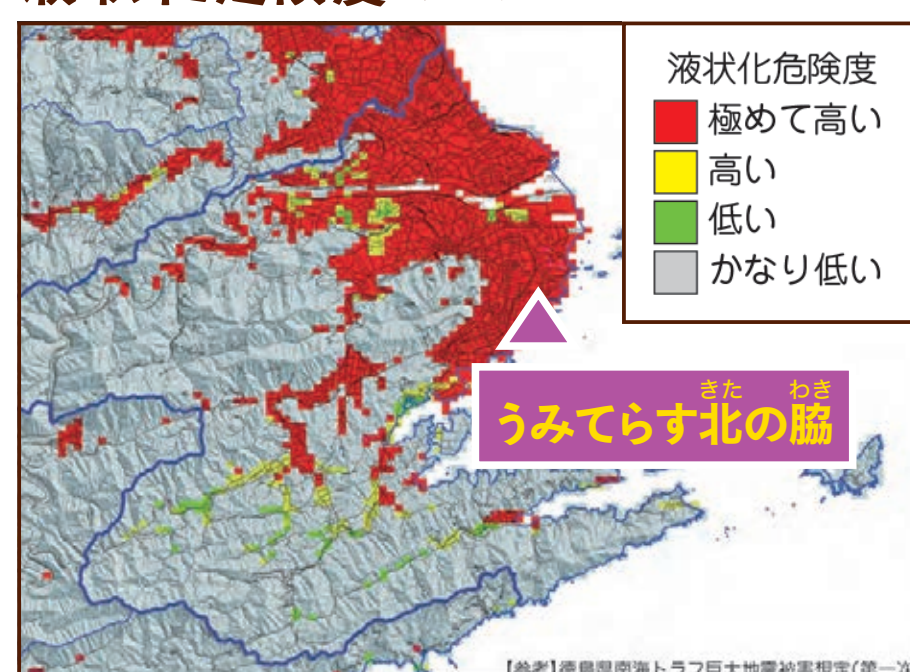
阪神淡路大震災(1995) 規模： M7.3	人的被害 死者・行方不明者： 6,437 万6千名以上 負傷者： 43,792 名	住宅被害 約 25 万6千棟
東日本大震災(2011) 規模： M9.0	人的被害 死者・行方不明者： 2 万5,949名 負傷者： 55,314 名	住宅被害 7 万6,800棟
熊本地震(2016) 規模： M7.3	人的被害 死者： 55 名 負傷者： 1,814 名	住宅被害 約 16 万6千棟
南海トラフ 想定規模： M9.1	人的被害 死者： 29 万6千名以上(全国) 負傷者： 55 万6,000名以上	住宅被害 約 220 万6千棟以上

阿南市の最大被害想定

四国地方全体 死者： 6 万6千名 負傷者： 14 万3,000名 住宅被害： 55 万5,000棟

阿南市 死者： 4,600 名 (人口の 6.1 %) 住宅被害： 1 万6,000棟
--

液状化危険度マップ



阿南市では市内の建物の56.8%が全壊・焼失すると予想されています。震度7または6強の非常に強い揺れが起き、最大8.2mの津波が発生するとされています。また、揺れにより液状化現象が発生します。液状化現象は地面が一時的に液体のようになってしまうことで、北の脇海水浴場も液状化現象が起きると考えられています。